

営農情報

(イチゴ)

第106号平成23年4月26日発行

J A 福岡大城
南筑後普及指導センター

4月の生育経過及び5月の管理方針

○4月は3番果房のピークを迎えた。早期作型から普通作型へピークが移行し、株ごとに3番果房の収穫状況にばらつきがあり、また雨が少なく夜温が低かったことで、傷み果などのロスが少なくなり、出荷量は多くなった。

○4番果房は出蕾～指先大であり4月下旬からの収穫が見込まれるが、2、3番果房が連続しているほど展葉が遅れており、また未出蕾株が一部あるなど収穫量は急増しにくい。

5月以降は開花から成熟まで30日以内と、気温が上昇するにつれて成熟期間が短くなるため「いつまで収穫するか」を考えて、ロスのない管理に努める。

○ハダニ、アブラムシ、スリップス類の発生は多く、うどんこ病は春先から徐々に増えている。本年度は4月の収穫量が多かった影響で、本田や親苗床の防除が計画的にできていない場合があり、今後注意が必要である。

○親株

4月以降ランナーが発生しており、遅れないよう炭そ病防除、育苗準備を行う。

これまでの少雨のためランナーの発生が遅れることも予想され、乾燥が続く場合はかん水対策を行う。「炭そ病」の感染拡大に注意して、防除と適期作業に努める。

今後の管理について

5月はさらに気温が高く、日射しも強くなるため、ハウス内の気温の上昇に留意し品質保持に努める。収穫間隔が開きすぎないようにし、着色基準の厳守に心がける。

- 軟果対策として収穫前日の多量かん水はしない。高温の時期であるため、かん水間隔日を詰めて多回数行う。
- キズ果防止に、収穫が終了した果梗は除去する。
- 果実側に伸び上がっている新葉のつま取りを随時行う。
- 温度管理は、サイド・つま面を夜間も開放し低温で管理する。
- 収穫作業は、収穫日の間隔を短縮し、高温の時間帯での収穫を控え、収穫時の着色基準を厳守する。収穫した果実は、収穫箱内での積み重ねは避け、低温の場所に移す。

親株の管理について

●炭そ病対策

炭そ病の分生子（孢子）は、半日程度の濡れた状態でイチゴに感染する。このため、かん水は午前中に行い、夕方には乾くようにする。親株の手入れ、苗取り等の作業は、株が濡れた状態のときは絶対にしない。手入れ前後の薬剤防除は必ず行う。

薬剤防除は定期的に行う。雨が続く場合は、雨の合間に防除し、炭そ病菌の浸入を防ぐ。

また、浸水対策として排水溝の整備を行っておく。

● 追肥

軟弱徒長による「炭そ病」感染対策として追肥は極力控える。

プランター等の栽培槽での親株の場合は、ランナー発生促進のためかん水と、緩効性肥料（2回目は1株当たりIB化成5粒程度を5月上旬までに追肥する）の追肥を行う。

育苗準備について

● 育苗培土準備

- ✓ 育苗培土は、事前に培土の特性（肥料・排水性等）を把握し、それに適した管理を行うようにする。（必ず、排水性の良い培土を使用する）
- ✓ 培土量は、3.5寸ポット8000鉢で4m³、3寸ポット8000鉢で2.5m³を目安に用意する。

● 育苗床準備

- ✓ 育苗床は風通しが良く、浸冠水のない排水良好な場所を選定し、排水対策を講じておく。
- ✓ 苗の徒長防止と「炭そ病」予防のため、過密にならないように、育苗床の面積は十分に確保する。（ポットの中心間隔を18cm程度とれるようにする）
- ✓ うねは、中央部をやや高くし、かん水した水がうね上に溜まらないようにする。
- ✓ 床面には、古ビニルを敷き、その上にポットシートやマリックスシート等を敷く。

鉢上げについて

【 さしポット 】

- ✓ 親株床の排水対策に、排水溝の整備を必ず行う。 全面マルチ+稲わら
- ✓ 増殖床は全面マルチの場合は稲わら被覆を行う。
稲わら被覆を行った親株床には、かん水施設を設置し、採苗1週間前からかん水し、子苗の発根を促す。
- ✓ ランナー発生時期には定期的な防除を実施する。
- ✓ ランナーの適正配置を行い、子苗が一カ所に集中しないようにする。



【 すけポット 】

- ✓ 5月10日頃より根がこぶ状に発根した苗を、順に鉢受けし、海苔みす等で止める。根が伸びすぎている苗は鉢上げに使用せず、葉の除去を行っておく。ランナーが極端に細い子苗も使用しない。鉢上げ作業の前後の「炭そ病」防除を徹底する。
- ✓ 鉢土が乾燥すると、根の伸張が悪くなるので、乾燥させない。
- ✓ 鉢受け期間中の子苗への追肥は控える。（軟弱防止と「炭そ病」予防のため）
- ✓ できる限り5月末までに受け、必要数の子苗を受け終わったら、子苗の生育促進のためランナーの先端をピンチする。次に、子苗の徒長防止と病虫害予防に親株の全葉摘除を行う。（除去前後の防除を徹底）



重点啓発事項(スローガン)

- 1 散布前は必ず農薬ラベルの確認と飛散防止の徹底！
- 2 散布後は必ず散布器具(タンク等)の洗浄と防除履歴の記帳！